

住民と淑徳大生がタツグ

町の集会所などのリノベに挑戦

長久手市



改修に向け、建築模型を使って住民に構想を説明する学生ら（丁子田集会所で）

地域の集会所などを改修し、小地域での支え合い活動の場にしようとする愛知淑徳大の学生が「町のリノベーション（修復、刷新）」に取り組んでいます。学生は建築・インテリアデザイン専攻、清水裕二教授ゼミの8人。長久手市からの補助金を受け、大学から近く、市内でも比較的高齢化が進む丁子田地区で行う試みです。1月31日には住民の

声を聞く2回目の交流会を開催。前回、住民からの「こんな場所があったらいい」という要望を受け、学生らが考えた2案を提示しました。

一つは丁子田集会所内の未活用場所にベンチや縁側を作り、憩いの場を設ける案。もう一つは元薬局で中西照明さんの自宅の遊休スペースを、茶飲みもできる集いの場として活用する案です。交流会に参加した中西さんは「住民の交流の場になるならとてもいいね。わくわくしてきました」と提案を快

く歓迎。学生の平松佐織さん（3年）は「私たちが卒業した後もずっと活用してもらえる場所になれば」と期待を込めて話しました。今後、住民と学生が一緒に片付けや施工などを進め、3月末までに完成を目指します。

2024年2月23日（金） 中日ホームニュース 第841号より
この記事は中日新聞瀬戸・尾張旭・長久手販売店会編集室の承諾を得て転載しています。